

核廃絶へ

日本政府は核兵器禁止条約の批准を

原水爆禁止国民平和大行進は日本全国をつないでおこなわれます。川口、鳩ヶ谷では原水爆禁止川口市協議会、原水爆禁止鳩ヶ谷地域協議会が中心となり、多くの個人・団体が力を合わせて実施しています。いまこそ平和を願い、戦争を許さず、核兵器の廃絶を求める国民の声を突きつけましょう。

川口 7月5日(水) 9時30分～川口駅東口デッキ 市役所まで行進

鳩ヶ谷 7月5日(水) 16時00分～鳩ヶ谷駅東口 スタンディング

7月の無料法律相談

◎日時／7月11日(火) 18時～

◎会場／日本共産党埼玉南部地区委員会事務所2階

川口市前川2-28-10 電話 048-267-8411

事前に電話予約の上、お越しく下さい。なお、申し込みの際は氏名、電話番号をお伝えください。当日は筆記用具などご持参ください。

主催：日本共産党川口市議会議員団

新川口

金子ゆきひろ 松本さちえ 板橋ひろみ ふじしまともこ

2023年6月25日 No.1704

日本共産党川口市議会議員団

川口市前川2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

<https://www.kawaguchi-jcp.jp/>

なぜ国保税がこんなに高いのか？

第3期県国保運営方針(原案)について

県議団主催で学習会を開催

国民健康保険の運営の主体は都道府県に移行し、埼玉県では令和6年度以降の県国保運営方針の第3期案が示されました。

6月12日の県国保運営協議会には日本共産党の山崎すなお県議も出席し、国保税の軽減のための質疑や要望なども行っています。

6月13日には、日本共産党埼玉県議団が主催する第3期国保運営方針のレクチャーを県職員から直接聞く場が設けられ、山崎県議も報告を行いました。川口市の国保税の負担増にもなりかねず、注視していく必要があります。

第3期埼玉県国民健康保険運営方針から(一部を抜粋)

- 法定外一般会計繰入金等の削減・解消に対する考え方に「令和9年度に保険税水準の準統一を実現するため、赤字以外を含めた法定外一般会計繰入金全体を解消する」が加わり、国保税の減税のための政策的な法定外繰入も解消していく方針が明文化。

- 保険税水準の統一

定義：原則として、同じ世帯構成・所得であれば同じ保険税となるようにする

統一の進め方：令和6年度から納付金ベースの統一

(医療費水準を算定しない。公費を県単位で計算する)

：令和9年度から準統一(収納率格差以外の項目を統一する)

標準保険税率の算定：県が、市町村ごとの保険税率の標準的な水準

(市町村標準保険税率)を算定し、保険税準統一ではすべての

市町村が市町村標準保険税率どおりに賦課することになる

市町村による条例減免(保険税及び一部負担金)

① 県内統一の基準を定め、全額を保険給付費等交付金の交付対象とする

② 各市町村が本基準を超えて減免を行う場合は、その一部を給付費等交付金の交付対象とする

- 保険税収納率の向上

：令和8年度までに全ての市町村で口座振替を原則化

：令和8年度収納率目標(被保険者数5万人以上の保険者 93.72%)

※令和3年度の川口市の現年度分収納 91.4%

知っ得情報

外見から分かりにくい「障害」 のあることを理解してください！

内部障害のある人等は、外見から分かりにくく、まわりから理解されにくいいため、電車やバスの優先席に座りにくい、日常生活に伴う外出など心理的ストレスを受けやすい状況にあります。こうした状況を少しでも改善する1つの取り組みとしてヘルプマークの利用についてご紹介します。



ヘルプマーク

ヘルプマークとは(赤色カードに白色の十字とハート)

知的障害や聴覚障害、義足や人工関節を使用している人、内部障害や難病、妊娠初期の人など、援助や配慮を必要としていることが外部から分からない方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、平成24年に東京都が作成したマークです。また、平成29年にJIS規格の図記号に追加され、全国共通のマークになりました。

ヘルプマークの申請窓口は障害福祉課

ヘルプマークの利用者の対象は、障害者や高齢者、妊娠初期の方など多様な方です。市の窓口は障害福祉課となっています。申請は障害福祉課窓口での手続きとなります。窓口に行くことが困難な方は **川口市役所(048-258-1110) 障害福祉課** へお問い合わせ下さい。

ヘルプマークを利用するには

申請には市が聞き取りをすることが条件となっています。窓口でヘルプマークの利用を希望すれば、市職員による簡単な聞き取り(アンケート)があり、ヘルプマークがその場で渡されます。

ヘルプマークを身に着けている人を見かけたら

電車やバスの中で、席をお譲り下さい。駅や商業施設等で、声をかけるなどの配慮をお願いします。災害時は安全に避難するための支援をお願いします。

：第65回：川口母親大会に参加

川口母親大会は今年で65回を迎え、6月17日に芝市民ホールを会場に開催されました。

午後の全体会の記念講演では、藤井健人さん(県立高校定時制の元教諭・2023年4月に文科省入省)から「教育経験格差～不登校・定時制の『その後』に待ち受けるもの～」と題しておこなわれ、自身の不登校経験や定時制高校での教員としての経験に基づいたお話がされました。藤井さんは、大学に進学後も定時制高校出身だと周囲の学生ともコミュニケーションがとれないこと、経験の格差がその後に社会に出ても挫折につながっていくことなど、心のケアだけでは解決できない問題提起もされました。参加者からもたくさんの質問・意見がでるなど活発な議論がされました。

午前中には、6つの分科会に分かれて、それぞれのテーマごとに現状の困りごとや課題などについて話し合いが行われました。障害児・者の分科会では、市内の小学校の特別支援学級や学校の様子について報告がされ、川口市は特別支援学級の設置率が県内でも低いこと、1クラス当たりの児童・生徒数が多いこと、補助員が少ないことなどが問題としてあげられました。参加者からは川口市や蕨市・戸田市の県南地域での障害者のくらしの場の確保が大きな問題となっており、ショートステイや入所施設の新増設を求める運動を共同して進めていきたいと思われ場となりました。



食の安全と学校給食の分科会では、報告者の古山成江さん(元栄養士・家庭栄養研究会)は環境化学物質が子どもに与える影響を調査する環境省のエコチル調査が実施され研究結果が報告されており、環境ホルモン等子どもの健康・発達に有害な化学物質について学び、規制、対策の実施が求められている。全国オーガニック給食協議会が設立されたことも紹介し、安全でおいしい給食のためには有機農産物の活用や全校に栄養士配置が大切と語られました。その後、給食調理員や教員などが現状報告や意見交換をしました。

日本共産党市議団からも参加しました。今後、川口母親大会として、市への要望書を提出していく予定です。党市議団もみなさんの声を市政に届けて参ります。